



孫はやっぱり可愛いもの、伊々君と美南子さん(H27.4)



岡本会長、神奈川から阿部君、古田さん(H28.4)



ブラジルのお正月 一族郎党で集まって(H28.1)



いつになってもみんなそれなりです(H28.4)

「Jチャンネルのお楽しみ日記」

「砥部中 十二期会」の巻

私は昭和三十四年砥部中学校を卒業しました。新制中学(分かる人が少なくなりました)の十二期生です。

学校は原ヶ丘という高台にあり(現在は砥部小学校)当時、冬の寒さは尋常ではなく、習字の授業の時、窓側の友達の砚に薄氷が張ったこともあります。中学校三年間にはいろいろな思い出がありますが(笑)

二年生の時、当時珍しかった先生のバイクに乗りたくて何度もお願いして昼休みに順番に乗せて貰うことになりました。何人目かの友人の番になってエンジンをかけようとした時、バイクから火が出て運動場の真ん中で燃えてしまったことがあります。その時、先生はみんなが無事で良かったと繰り返し言っておられました。(高石先生、本当にご迷惑をかけ申し訳ありませんでした)

又、三年生の時に、ブラジルへ移民した友人もいます。外国への手紙の出し方も分からず以後音信不通でしたが、私が町長に就任して暫くして、ブラジルから一通の手紙が届きました。同級生の土居美南子さんからです。「広報とべを見ました。中村さん、町長になられたんですね、おめでとうございます。」「それをきっかけに文通が始まり平成二十年、半世紀振りに同級生のもとに帰ってきました。ブラジルでは大変な苦勞をされたようで「あの時(移民)両親も日本がこんなに発展するとは思わず新天地を求めてブラジルへ行っただけ……。」「行つて良かったと思わんとイカンよね、きれいな桜の花を見ると私はやっぱり日本人」としみじみ言った事が胸にジーンとききました。

さて、砥部中十二期会、集まれる者だけでいいから毎月十二日に集まろうやと言う事になり、それから二十年近くになります。休んだ月もありますが毎月のように十数名の仲間が集まって来ます。同じような昔話をテープレコーダー(これも古い!)のようにやっているのかも知れませんが(笑)

同級生ついでいいものです。



中村剛志

平成28年7月号